

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成18年度病害虫発生予察特殊報第1号について

平成18年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成18年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病害虫名：ニガウリ青枯病

2 発生作物：ニガウリ（自根）

3 病原細菌：*Ralstonia solanacearum*

4 発生確認の経過

平成18年7月上旬、南那珂郡南郷町の露地栽培のニガウリ（品種名：不詳）で、茎葉の一部あるいは全身の萎れが見られはじめ、激しいものでは枯死する症状が発生した。ほ場内の数カ所でまとまって発生しており、次第に広がりつつある様子がうかがわれた。被害株の茎部を切断してみると維管束の褐変が見られ、菌泥の漏出が確認された。

宮崎県総合農業試験場及び当センターにおいて、罹病株から細菌の分離を行い、細菌学的性状を検査した結果、*Ralstonia solanacearum* bv. 3と同定された。また、接種により症状が再現され、本菌による青枯病と確認された。

本病の発生は、沖縄県（自根）、長崎県（カボチャ台木）で確認されている。

5 病 徴

株全体の生育が衰え、萎凋し、激しい場合は枯死する。葉が黄化することもある。罹病株の茎部を切断すると、維管束が褐変している。茎を水中に入れると乳白色の菌泥が漏出する。ほ場内で坪状に、連続して発生することが多い。また、株内でも罹病枝と未罹病枝が混在する場合もある。

6 防除対策

- (1) 土壌伝染性の病害であるので、既発生ほ場の土壌を未発生ほ場に持ち込まない。
- (2) 病原菌は高温多湿を好むので、ほ場の排水をよくする。
- (3) 罹病株は感染源となるため、見つけ次第処分する。ただし、引き抜くと隣の株の根を傷め、感染を助長するので、地際部から茎を切り、地上部をほ場外に持ち出して処分する。栽培終了後には罹病株や残根の除去を徹底する。
- (4) 連作ほ場で発生しやすいので輪作を行う。また、センチュウ類が多発すると発病を助長するので土壌消毒を行う。



写真1 発生ほ場の様子



写真2 病原細菌の漏出



写真3 ニガウリ幼苗での病徴
(接種試験)

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref. miyazaki. lg. jp

ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>